

令和7年度幼児教育センター情報誌第3号は「支援活動特別号」として、幼児教育センターの事業の柱である「小学校支援活動」についてお知らせします。保幼小連携交流の参考にぜひご一読ください。

## ～幼児教育センター支援活動とは～

### 【小学校支援活動の目的】

- ・幼稚園または、保育園で保育経験のある職員が小学校を定期的に訪問し、1年生の支援を行いながら、保・幼・小の円滑な連携、接続、交流を推進するための調査研究活動を実施する。また、施設間の情報交換を推進する。
- ・小学校での支援を通して、支援学校地域の幼児教育施設との連携・接続・交流活動をコーディネートする。

### 【支援の概要】

(令和7年度実績)

- ・支援拠点校8校(小学校支援担当4名)
- ・1校につき週1日 1学年登校時～下校まで

### 【具体的内容】

- ・1年生の着替え・トイレ・給食・健診等の支援および、クラス担任の指示のもと授業準備や片付け、学習支援
- ・小学校生活になじめない児童の実態把握および支援
- ・小学校行事、地域交流活動の手配、調整や支援
- ・読み聞かせ、集団遊びなどの支援

## 小学校支援を通じた調査と研究

保育経験者による支援活動では、保育者としての視点から、小学校教員とこどもの育ちや就学に関する話題などを情報交換しています。また、小学校就学直後のこどもたちの様子、学校の取り組みと仕組みなどについて観察、調査した内容を、研修会などを通して幼児教育、保育の現場に伝えています。

## 架け橋期カリキュラムをつくろう

【架け橋期】…義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤を作るために重要な時期です。この時期を「架け橋期」と呼びます。

【架け橋プログラム】…こどもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、この時期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人ひとりの多様性に配慮したうえで全てのこどもに学びや生活の基盤を育めるようにすることを目指すものです。

架け橋期カリキュラムとは、遊び中心の幼児教育と教科を学ぶ小学校教育を円滑に接続(架け橋)させ、こどもの学びや生活の基盤を育むための教育課程・計画のことです。架け橋期の2年間を一体のものと捉え、保育所、幼稚園、小学校が共通の視点を持ち、共同作成していきます。

架け橋期カリキュラムを作成し、こどもたちの円滑な就学を目指しましょう。

幼児教育センターでは令和8年度より「スタートカリキュラム研修会」「アプローチカリキュラム研修会」の二つの研修会を統合し「架け橋期カリキュラム研修会(仮)」を開催いたします。保育現場、教育現場の取り組みを後押しできる内容となるよう企画いたしました。ぜひ、ご参加の検討をお願いいたします。